



みみだより

松江ろう学校 支援部

No. R2-2 2020. 7. 17

新型コロナウイルスの感染予防として私たちの新しい日常となりつつある「透明マスク」と「フェイスシールド」。感染予防のためのマスクの重要性は理解しつつも、聴覚障がい児・者にとって、口元の見えない一般的なマスク（不織布や布製）は大きな障壁となることは事実です。誰が話しているのか分かりにくく、口形も表情も分からない…。そんな私たちの救世主が、「透明マスク」や「フェイスシールド」です。松江ろう学校では三密にならないようにソーシャルディスタンスを保つ、適宜換気をする、手洗い・うがいをするなどのできる限りの対策を行った上で、児童・生徒・幼稚部保護者・教職員は「透明マスク」や「フェイスシールド」を着けて学校生活を送っています。コミュニケーション面、学習指導の面などから、やはりろう学校において口形が見えることが非常に大切だと考えるからです。テレビでもフェイスシールドを着けて手話通訳をする手話通訳士の姿を目にするようになりました。聴覚に障がいのない人が気付きにくいことが社会にはまだまだたくさんあります。聴覚障がい児・者への理解がより一層進んでいくことを願っています。

さて今号では、「幼稚部の自立活動の紹介」「リニューアルした幼児聴力検査機器」「夏休みに向けておすすめの本紹介」をお伝えします。

自立活動の紹介（幼稚部）

いつでも見に来てくださいね！

合同保育「おはようタイム」のねらいは、「①身体を動かし、身体と心を目覚めさせる。②自然な明るい声でみんなと一緒に楽しく声を出したり歌ったりする。③音やリズムをきき取り、リズムに合わせて身体を動かす。④集団での活動に楽しく参加する。」です。何よりも友だちと一緒に活動することが楽しくなってほしいなと願っています。

9:45になると当番さんがCDデッキの10番をスイッチオン、1学期は「いっとうしょうたいそう」を踊っています。体操が終わると子ども達がCDデッキ等をお片づけして次の準備をしてくれます。

子ども達が定位置に並ぶと、一人一人の名前を音声と指文字、そして写真カードを使って呼びます。手を挙げて大きな声で返事をしてくれる子どもたちがだんだん増えてきました。そして、「元気ですか？」の教師からの呼びかけに元気ポーズで生き生きと答えてくれます。

それから、耳を澄ましてエレクトーンの音に集中、音の鳴り始めをきいて（または音がすると光るオンテナの光を見て）立ち上がります。さあ、1～4番の順におはようタイムが始まります。

「1番目」は4歳児が1週間交代でする挨拶。まだまだ恥ずかしそうにしています。

「2番目」は歌。教師が奏でるエレクトーンに合わせて、保護者も一緒に全員での手話を伴った歌声が響きます。その時には声が出なくても、後で鼻歌を歌っているお友達もいるんですよ。歌が終わると、ホワイトボードは希望する幼児たちが片づけてくれます。

「3番目」はリズム。エレクトーンに合わせて、今は、「汽車」のリズムを身体表現しています。両手をまわしながら走り、エレクトーンの音の変化をきき分けたり手話の合図を見たりして手を伸ばしかかとを立て足を延ばして伏せます。最後は音の違いをきき分けたり、「帰る」の手話での合図を見たりして自分の席に戻ります。

「4番目」は、4歳児の挨拶。初めの挨拶よりも少しだけ自信をもってできます。



幼児聴力検査機器が新しくなりました！



昨年度末に、幼稚部棟の幼児聴力検査機器が新しくなりました。

今まで使用していた検査機器は約20年くらい前に外部から譲り受けたものでした。最近ではスピーカーの不具合などが少しずつ出始めたこともあり、新しくしてもらいたいとお願いを続けていましたが、このたび検査機器

を一新することができました。新しい機器では、ヘッドフォンが装用できない場合でも個人のイヤモードに直接つなぐことで裸耳の測定をすることができます。これまでは赤ちゃんや幼児ではなかなか左右別々に裸耳の測定をすることは難しかったのですが、それができるようになりました。

また、両サイドにあった大きなスピーカーBOX（中には懐かしのブラウン管TVがありました）をなくし、正面に1台のTV（もちろん液晶です）と小さなスピーカーを設置し、前よりも広々と余裕のある部屋になりました。電車も新しくなり、動きもスムーズで幼稚部の子どもたちにも、教育相談で来る子どもたちにも保護者にも好評です。また時間のあるときに是非見に来てくださいね。

おすすめの本紹介

～学校司書の大川さんに夏休みにおすすめの本を聞きました～



「手であそぼう
まねっこあか あお きいろ」
田中ひろし/ほるぷ出版
色をあらわす手話には、どんなものがあるのかな？あか、あお、きいろはどんな手話を

つかうのでしょうか。本を読んでみんなでまねっこしてみよう！手であそぼうシリーズには「まねっこどうぶつえん」「てで すききらい」があります。

「マンガでマスター手話教室」
早瀬憲太郎/ポプラ社

小学生のタクヤは、転校した小学校でろう者のサヤカと出会ったことをきっかけに手話を覚え

始めました。初めはうまく話が伝わらず、けんかになることもありました。しかし、お互いを思いやる心で仲良くなっていきます。絵や写真がたくさんあるので、みんなで読んでみてくださいね。



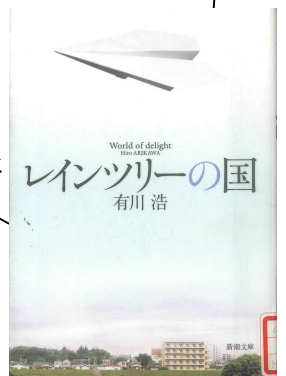
「ラブレター」
藤井清美 他/汐文社

聴覚障がいのある女の子と幼なじみの男の子の切ない恋の物語です。二人は手話を通じて心を通わせ、小さな恋を育んでいくのですが…。ドラマから小説になりました。



「レインツリーの国」
有川 浩/新潮社

共通の趣味をもつ男女がネットで知り合い、仲良くなってきた頃、女性は自分が中途失聴であることを打ち明けます。そのあとの二人は、お互いの考え方に悩む事が多くなっていきます。この本を読んでみて、みなさんならどのように思うでしょうか？



☆☆夏休みにぜひ読んでみてくださいね☆☆